

本日は私たちの家の見学会にお越しいただき、ありがとうございました。

これから家を建てることをお考えになっいらっしゃる皆様の、少しでもご参考になれば幸いです。私たちがなぜこのような家を建てたのか、以下に少しご説明させていただきたいと思います。

20年も昔から、いつかは自分の家を建てたいと思い、いろいろな資料は集めていました。大草原の小さな家に出てくるログハウスや赤毛のアンに出てくる家にあこがれを抱いていた私でしたが、そんな私の家に対する考え方を全く変えてしまったのが、97年から98年にかけての一年間のイギリス留学でした。お世話になった牧師ご夫妻の家は、シェークスピアの時代に造られた建物で、ご夫婦の自慢の家でした。水漏れしたりと、しょっちゅう手をかけなければならない家なのですが、ご夫婦のお友達の家は新しく出来た立派な家なのですが、うちは新しくてだめなのです、とおっしゃるのです。伝統ある古い物を誇りにし、大切にし、そこに価値を見いだしている彼らの姿勢に大きなカルチャーショックを受けました。古い物こそ良いと言う価値観！そして田舎はどこへいっても本当に美しい国！風景の中に何の違和感もなく溶け込んでいる家、家。プリンス、チャールズが、なぜイギリスの田舎はこんなにも美しいのか、と質問された時に、それは家、家があたかも地面から生えたかのように、自然に溶け込んでいるからでしょう、と答えています、本当にその通りだと思いました。

振り返って日本はどうかと考えた時、あまりの違いに愕然としてしまったのです。どこへ行っても美しかったイギリスの田舎、美しい田舎は探さなければならない日本。その土地の気候風土から生まれた、伝統的な美しい日本の建物はどんどん壊され、見回せば国籍不明の家ばかりが建ち並ぶようになってしまっています。新しいスタイルの家は合理的で住み心地も良いのかもしれませんが、外国の方が来られたとき、これが私たちの誇れる日本の家なのです、と胸を張ってお見せすることができるのかどうか。美しい日本の町並みや建物は、奈良や京都や白川郷などへ行かなければみることが出来ないと言うのでは悲しいことです。

それからイギリスで1年暮らして、自分が日本人であることも強く意識しました。

もし私が家を建てることがあるなら、これが日本の家です、と胸を張って外国の方に見て頂ける家を建てたいと思いました。

そして、ついに、私の夢が実現する時がやって来たのです。

私の夢を実現してくれる設計者を探すことが大変でしたが、日本子孫基金の住宅担当顧問の山賀康弘先生から、松井郁夫先生をご紹介いただき、この土地の気候風土にあって、自然に溶け込んだ、木組みの、家自体が呼吸している健康的な日本の家、というわたしたちの希望通りの家を設計していただくことができました。松井先生より矢島工務店様をご紹介いただき、すばらしい腕を持つ大工さんや、左官屋さんによってこの家ことができました。材料も徹底的にこだわり、自然環境にできるだけ負担をかけず、また私たちの健康も絶対

に損なわれることのない材料を選びました。

主な物は化学的な処理のされていない杉、桧、松材、漆喰、断熱材は杉のチップをコーンスターチで固めたホレストボード、合板はできるだけ使わず、どうしても使わなければならないところには、ノンホルムアルデヒドの合板か F4 の合板を使用、接着剤も F4 のものを使用、シロアリよけには木酢、塗料は柿渋、桐油、亜麻仁油を使用、畳床も農薬使用を押しえた藁を使い、もちろん畳表は無農薬、無染色の畳表を使用など。

材料の一部は展示してございますので、ご覧になって下さい。

予算の関係で太陽熱の利用と、雨水の利用は、残念ながら諦めざるを得ませんでした、いずれ取り入れて行きたいと思っています。

尚、外壁も内部も塗装はすべて私たち夫婦でおこないましたので、建具、木の壁の一部、柱、梁等まだ塗装の済んでいない部分もございますので、済んでいる部分との違いを見て頂ければと思います。

施主敬白